

## 寿福祉ひろばの方たちと『サイコロトーク』を行いました！！



アルプス福祉会の“地域づくり部会”では、どうしたら地域と繋がることのできるか、障がいのある方たちのことを知っていただくことができるか、ということを考えています。障がいのあるなかまたちは、表現の仕方はそれぞれで、言葉では上手に伝えられない人もいますが、いっしょに楽しんだり話しをしたり聴いたり、人との関わりが大好きです。そこで、昨年法人内だけで行なったサイコロトークを、地域の方たちといっしょに、と考えました。7月7日（木）コムハウス食堂には、なかま7名、寿福祉ひろばの方4名など総勢16名ほどが集まり、にぎやかにスタート。トークのお題は、「大事にしていること」「最近楽しかったこと」「今がんばっていること」など6個です。自分のなまえと住んでいるところを言って自己紹介し、「いきま〜す！」と大きな声でサイコロを投げます。みんなそれぞれいろいろな思いがあっておもしろい！！「まきの作業がんばってるよ」「うなぎ食べにいきたい！」などなど。質問もいっぱい出てさらに伝えたいことが広がります。

小さなきっかけで少しずつみんなの想いが伝わり、大きな輪になるといいなと改めて思いました。

「いきま〜す！」



書いて伝えることができるよ。



みんなで「ハイチーズ♡」



## ～この街に生きる～

「鮭は上流に向かって必死で遡上する。今の場所に留まるだけでも必死に泳いでいるのに、更に上流を目指す為には、さらに必死で泳がないとたどり着けない。」障がい者の暮らしは、そんな感じではないかと思う。ただ、日々の「あたりまえ」の暮らしを手に入れたいだけなのに、それを手に入れる為には、まず支援を受ける為の計画を立ててもらうことが必要になる。その計画に同意し、支援会議を開いてもらって、やっとその暮らしが手に入る。さらに、支援にかかる費用の1割は負担する仕組みである。だから、支援を受けていて、この支援は自分のお願していることとちょっと違うなと思っても、修正することに、とても支援者に気を使うことになる。たとえば、円滑に支援を受ける為には、「これで良いですか？」と聞かれると、「はい」と返事をしてしまう。今は障害福祉で働く人も少ないから、多少違って「はい」と言う。言わないと、日常を支えてくれる貴重な人を逃してしまうからだ。日常を手に入れたいだけなのに、「障がいとともに生きる」ことは、大変な日々である。何より、他者の支えを受けることは、本当に大きなエネルギーが必要なのだ。このことは、自分が「支援される身」になったら、強く実感するはずだ。

これは障がい当事者のリアルな声です。そして私たち支援者も、日々支援を提供しながら、制度の不備に向き合わされます。私たちは、支援とともに制度を見直して、障がいのある人があたりまえに日常を送ることができる社会をめざしています。ですので、制度を作っている国に、毎年制度改正を求める署名と募金活動を行っています。昨年は、2325筆181,736円のご協力をいただき、全国では70万筆、2600万を超えるご協力を得ました。

皆さま、ご協力ありがとうございました。今年も取り組みますので、ぜひ、ご協力をお願いします。